

小田原後北条家第 4 代将軍北条氏政

中村 正悟 (21211248sn@tama.ac.jp)

荒畑 正義 (21211012ma@tama.ac.jp)

村尾 直紀 (21211330nm@tama.ac.jp)

1. 北条氏政とは

北条氏政（1538 年～1590 年）は相模国（現在の神奈川県）を支配する戦国大名後北条家の 4 代目当主である。彼は武田氏との同盟関係を持つなどの高度な外交手段を行い、さらに約 20 年にも渡り徳川家康や上杉氏などの外敵からの侵攻を阻止した。そして後北条の領地を関東のほぼ全域にまで伸ばし、後北条家の最大領土である 240 万石を治める大大名となった。

しかし、1590 年の豊臣秀吉による小田原征伐により後北条氏は敗北。氏政は切腹し、戦国大名としての小田原後北条氏は滅んだ。享年 53 歳である。

2. 評価の低い氏政

この北条氏政は北条 5 代の中で最も後世での評価が低く、研究論文や伝記もあまり出ていない。これは、戦国大名後北条家を滅ぼした張本人であるというレッテルが最大の原因だと思われる。そして、先代たちが優秀な人物であったということもある。小田原後北条の開祖「初代 北条早雲」。関東への進出を始めた「2 代目 北条氏綱」。そして生涯 36 度の合戦で一度も敵に背を見せず、受けた傷は全て向こう傷であったと伝えられる武人「3 代目 北条氏康」。北条家に関する研究や伝記のほとんどはこの 1 代目から 3 代目に集中している。

しかし、氏政は後北条家の領土を関東全域にまで伸ばしたという実績を持っているため、手腕のある武将であったには違いない。

3. この研究の目的

関東全域を支配したが、最後には家と領地を失い切腹した戦国大名。北条氏政がどのような人物であったかを知ること、彼がなぜ評価が低いのかを検証。そしてその中に埋もれてしまった彼の功績や能力を見つけ、北条氏政に対する評価を見直して行く。

4. 社会的な意義

北条氏政はあまり注目されていない武将であると同時に北条家を潰した当主という事から低い評価を受けている。しかし、あえて注目しそれを見直し、新たな発見や新しい観点、別の視点からのこの人の人物像を改めて知ることによってその評価が本当に相応しいものなのかを見直す。

それにより、北条氏政に対する社会的な評価や注目が上がれば、さらにこの人物についての研究が進む。さらに北条5代についての研究が全体的に行われ、またそこから新たな発見が生まれるのではないだろうか。



小田原城天守閣蔵
北条氏政公肖像画